

羽田空港情報をご利用ください。

フライト情報やイベント情報、店舗情報など、インターネットで発信しています。

羽田空港 国内線旅客ターミナル BIG BIRD

<http://www.tokyo-airport-bldg.co.jp/>

フライト情報をはじめ、羽田空港のご利用に有用な情報を網羅して発信しています。

BIG BIRD 検索



facebook

<https://www.facebook.com/haneda.airport>

イベントレポートや施設のおすすめ情報などをタイムリーに発信しています。上記ホームページからアクセスすることができます。



スマートフォン対応アプリ

ご搭乗予定のフライトを「マイフライト」として登録することができます。

スマートフォン端末向けアプリ概要

アプリ名	「羽田空港 国内線」
対象機種	iPhone iOS4.3以上搭載のiPhone Android OS 2.2以上の各社スマートフォン
提供方法	App Storeよりダウンロードいただけます。(無料) Google Playよりダウンロードいただけます。(無料)



 日本空港ビルディング株式会社
Japan Airport Terminal Co., Ltd.

証券コード:9706

株主・投資家の皆さまへ

第70期 株主通信

第2四半期

2013年4月1日～2013年9月30日

60th ANNIVERSARY
JAPAN AIRPORT
TERMINAL

 日本空港ビルディング株式会社
Japan Airport Terminal Co., Ltd.

〒144-0041 東京都大田区羽田空港三丁目3番2号
(第1旅客ターミナルビル)

TEL:03-5757-8000

<http://www.tokyo-airport-bldg.co.jp/company/>





代表取締役社長 鷹城 勲

Q 航空業界を取り巻く状況を教えてください。

A 航空業界は大きな変革期にあり、より一層の空港運営の効率化、集客力・収益力の向上が求められています。

上期の航空旅客数につきましては、羽田空港国内線は、発着枠拡大による増便や景気回復などに伴い、前年同期比で増加となりました。国際線につきましては、東南アジア諸国に対するビザの発給要件の緩和や、円安による訪日旅行の割安感の浸透などにより訪日外国人旅客数が前年を大きく上回り、成田空港及び関西空港国際線は前年同期比で増加となりましたが、羽田空港国際線では外国人旅客数が増加したものの、日本人旅客数の減少がそれを上回り前年同期比で減少となりました。

皆さまにご利用いただき 価値創造と航空輸送の

通期につきましては、当社の経営基盤を支える羽田空港国内線の航空旅客数は、2万回の発着枠の拡大により前年度を上回る見込みであり、国際線旅客数も増加が見込まれますが、主要顧客である航空会社は厳しい競争環境のなか経営合理化を進めており、当社においてもターミナル利用コストの削減について一層の対応が求められています。

また、航空業界は大きな変革期にあり、国土交通省では、オープンスカイ、LCCの参入促進、空港経営改革の3点を航空分野の成長戦略として推進しております。

オープンスカイやLCC参入は着実に進捗しつつあり、空港経営改革につきましても、いわゆる「民活空港運営法」が本年7月に施行されましたので、今後、当社としても一層の空港ターミナル運営の効率化、集客力・収益力の向上を図り、適切に対応してまいりたいと考えます。

Q 上期の主な取り組みと成果を教えてください。

A 羽田空港国内線第2旅客ターミナル増築部供用開始及び事業収益性改善について、概ね計画どおり推進しております。

上期に取り組みました課題及び実施施策につきましては、まず羽田空港国内線第2旅客ターミナルの3スポット増設工事が完了し、本年4月に供用を開始いたしました。空室対策につきましては、新たな商業施設、医療施設などの誘致に向けた調整を進めているほか、2012年4月にオープンしたコンパクトホテル「ファーストキャビン」の稼働が好調であることから本年8月に拡張いたしました。

飲食事業対策につきましては、国内線第2旅客ターミナルの3スポット供用開始に伴う新規直営店舗をオープンし

当社は創立60周年。これからも羽田空港の新たな 発展に貢献してまいります。

たほか、機内食につきましては、昨年度着手した海外ケータリング最大手のLSG社との業務提携によるコスト削減において、少しずつではありますがその効果が出てきております。

当社事業全体の収益性改善につきましては、引き続きコスト削減を進めるとともに、物販事業におけるプライベートブランド商品の拡充・販売促進や原価低減など、更なる効率化による収支改善を図ってまいりました。

当初予定していた施策について、概ね計画どおり推進しております。

Q 今後取り組むべき課題について教えてください。

A 更なる羽田国際化への対応及び事業収益性改善を進めてまいります。

上期に引き続き空室対策及び飲食事業対策を更に推進していくとともに、国際化への対応として来年3月末の国際線発着枠の拡大に向け内際乗継アクセスを強化するために、国内線旅客ターミナルにおける乗継施設整備の工事を本年11月に着工いたしました。

また、国際線旅客ターミナルの増築に対応し、来年9月にオープンが予定されている付帯ホテルについて、運営受託の準備を進めるとともに、増築される国際線旅客ターミナルにおいて、お客さまのニーズに即した日本初の新しいブランドブティック店や有名店を誘致し、魅力的な商業施設を展開することで、国際線の拡大需要を確実に取り込むほか、既存店の活性化と効率化を図り、収益力を拡大してまいります。

Q 株主の皆さまへのメッセージをお願いします。

A これからも空港ターミナル事業のリーディングカンパニーとして、羽田空港の価値創造と航空輸送の発展に貢献してまいります。

当社は本年7月20日に創立60周年を迎えました。今日に至るまでの株主の皆さまのご支援に深く感謝申し上げます。

戦後、羽田空港が米国から返還され、日本の空の玄関として再発足する2年前の1953年7月20日に純民間資本により設立された当社は、「公共性と企業性の調和」を基本理念として、旅客ターミナルビルの建設・管理運営に取り組み、着実な成長・発展を遂げてまいりました。

航空業界を取り巻く環境が変化するなか、当社は、創立60周年を機に、改めて空港ターミナル事業のリーディングカンパニーとしての自覚と責任を持ち、中期経営計画の重点課題のほか、国の成長戦略に新たに盛り込まれた課題「首都圏空港の機能強化」への対応を確実に遂行してまいります。即ち、産業・都市の国際競争力強化、訪日外国人の増加及び地域活性化の観点から、旅客ターミナル機能をより一層進化・発展させ、羽田空港の価値創造に努め航空輸送の発展に貢献してまいりたいと考えております。

また、当社は株主の皆さまに対する利益還元を重要課題の一つと位置づけております。

当期の中間配当金につきましては、前回予想から1株当たり1円増額し6円、期末につきましては1株当たり5円に据え置くこととし、年間配当金は1株当たり11円となる予定です。

株主の皆さまには、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

特集 1 | 60年の歩み ~更なる企業価値向上を目指して~

羽田空港とともに着実な成長・発展を遂げてまいりました当社は、おかげさまで2013年7月20日に創立60周年を迎えました。これからも、日本の空の玄関として絶対安全と更なる企業価値向上に努め航空輸送の発展に貢献してまいります。

設立~1970年代 ジェット機時代への対応

1953年
前年に米国より羽田空港返還民間資本により当社設立



1955年
羽田空港旅客ターミナル開館、供用開始
東京でも有数の人気スポットへと発展

1963年
国際線旅客ターミナル供用開始



1964年
東京オリンピック開催に向け国際線ターミナルの規模を2倍に拡張

1970年
国際線到着ターミナル供用開始

1978年
国際線が成田空港へ全面移転



1993年
第1旅客ターミナル供用開始

増大する航空需要への対応 1981年~ 沖合展開事業推進



2004年
第2旅客ターミナル供用開始

2001年
深夜早朝時間帯に限定した国際線を運航開始



2013年
英国SKYTRAX社が実施する世界の空港評価において、2部門で世界第1位

2010年
新国際線旅客ターミナル供用開始
第2旅客ターミナル拡張部供用開始
第1旅客ターミナルリニューアル

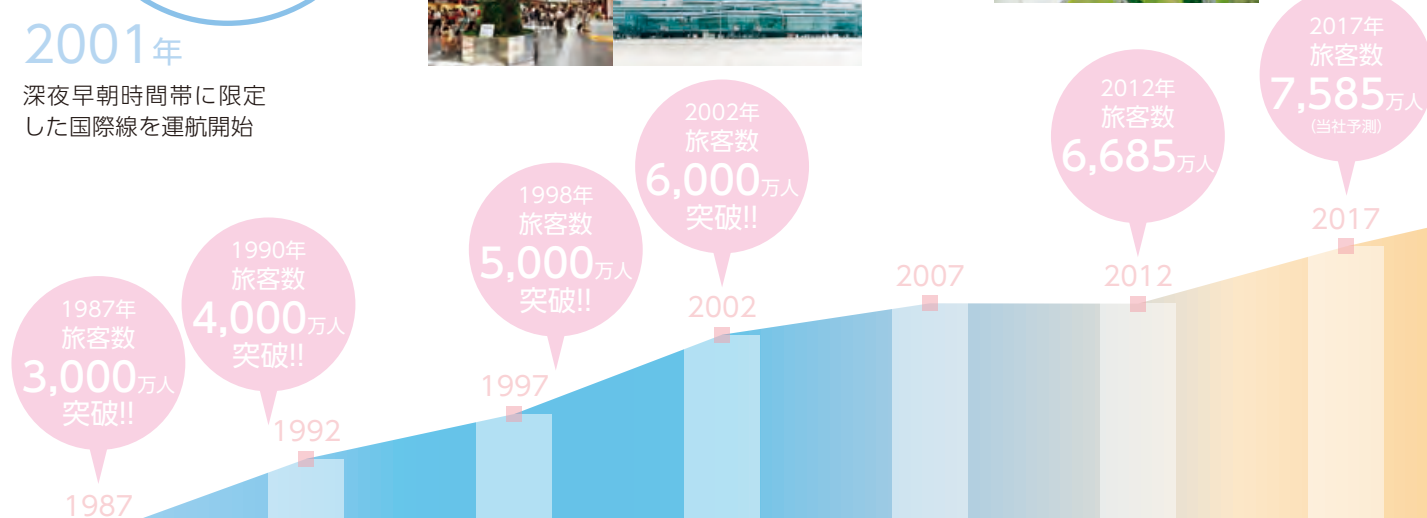


2014年
国際線旅客ターミナル増築部オープン予定



2020年
東京オリンピック・パラリンピック開催(予定)に向け必要な施設整備を進める

■ 羽田空港利用者数推移



特集2 | 羽田空港国際化への対応

1 国内線・国際線旅客ターミナル間の乗継利便性の向上を目指して

当社では、本年5月に発表した「中期経営計画(2013~2015)」において、「羽田国際化への対応(内際一体化の強化)」を重点課題として掲げ、国内線・国際線旅客ターミナルの一体的な運用の強化に取り組んでいます。

この度、国内線・国際線旅客ターミナル間の乗継時間の短縮を目指して施設整備を始めました。

- 1 2014年夏ダイヤ(3月30日)より、羽田空港国際線の昼間時間帯発着回数が年3万回増加
- 2 乗継動線の簡素化、乗継時間の短縮の観点から施設整備の必要性

国内線・国際線旅客ターミナルの乗継施設の整備を開始

主な内容

- 1ビル エスカレーター1基を新設
- 2ビル エレベーター1基、エスカレーター3基を新設

出発・到着が分離している第2旅客ターミナルにおいて、乗継旅客の動線の確保

利便性の向上

乗継時間の短縮

効果

- 1ビル 国内線から国際線への乗継動線の混雑緩和・利便性向上
 - 2ビル 国際線から国内線への乗継の際、バスラウンジから出発コンコースへの動線の混雑緩和・利便性の向上
- 国内線から国際線への乗継の際、到着スポットから直接出発バスラウンジへの移動を可能とするターミナル内での乗継動線を確保したことで、乗継時間が短縮

2 羽田空港昼間時間帯発着の国際路線が拡大

羽田空港から就航する国際路線が拡大します。2013年11月現在、12カ国19路線が就航していますが、2014年3月末(予定)の段階で昼間時間帯にイギリス、フランス、中国(就航路線の増便)、シンガポール、タイ、ドイツ、ベトナム、インドネシア、フィリピン、カナダ、ミャンマーの11カ国へ就航が予定されております。羽田空港国際線の旅客数も2012年の約800万人から2017年には約1,310万人へと増加が見込まれることから、内際一体の運用にもいっそう注力してまいります。

※国土交通省の認可を受けることを前提とした内容です。
※予告なく変更される場合があります。
※不定期チャーター便は含まれておりません。
※旅客数は当社予測



3 日本初のトランジットホテル 2014年9月末開業



地上8階、315の客室を擁し、トランジットホテルの機能をもつ「ロイヤルパークホテル ザ 羽田」の建設が国際線旅客ターミナルの増築に付帯して進められ、2014年9月末の開業を予定しています。国際線出発ロビーと直結する、「世界に一番近い日本のホテル」として、一流ホテルならではのホスピタリティと日本のおもてなし文化を融合し、海外からのお客さまにもご満足いただける上質なサービスの提供と利便性の向上を目指してまいります。

トランジットホテルとは

航空機の乗継時などに保安エリア内にある客室などを利用できるホテル。シンガポール・チャンギ空港、韓国・仁川空港など各国の主要空港に設けられている。

トピックス1

2020年東京オリンピック・パラリンピック招致活動の 応援イベントを実施

当社は、特定非営利活動法人東京2020オリンピック・パラリンピック招致委員会、東京都、日本航空株式会社、全日本空輸株式会社と共同で、2020年東京オリンピック・パラリンピック招致活動イベント「～ぼくらと空港が、夢をつなぐ～オリンピック・パラリンピックを日本で！」を行いました。

①人文字イベント「GOOD LUCK TO ALL! (みんなに幸あれ)」

②1,173人による一斉帽子投げギネス世界記録™更新

③羽田空港内に招致ポスターなどを掲示



②一斉帽子投げギネス世界記録™に挑戦



①人文字イベント「GOOD LUCK TO ALL!」

羽田空港のスタッフが
一丸となって実施しました。
世界のお客さまを迎える
2020年が楽しみです。



③壁に日本記録をプリント

事業企画部 事業企画課
吉田 哲也

トピックス2

羽田ー金浦便が就航10周年を迎えました

2003年、国際チャーター便として始まった羽田ー金浦便も、2013年11月30日で10周年を迎えました。当社と金浦空港の運営主体である韓国空港公社は毎年年次会議を開催し情報交換を行うとともに、人材交流も積極的に推進し、友好を深めながら空港サービスの向上に取り組んでおります。就航10周年を記念して、特別優待券の配布やミュージックコンサートなど数多くのイベントを実施しました。



第9回年次会議(於 韓国・麗水)

金浦空港へは毎日
12便が運航されており、
ビジネスにも旅行にも
とても便利です。



総務・人事部 総務課
主任
大和 義典

トピックス3

インド「ドレラ新国際空港建設事業準備調査」に参画 海外事業の拡大を目指します

新規事業機会の創出並びに羽田空港の更なる国際化を目指し、海外事業の拡大に取り組んでおりますが、今般、国際協力機構(JICA)の制度を活用し、インドのアーメダバード市で予定される新たな空港整備に伴う「ドレラ新国際空港建設事業準備調査(PPPインフラ事業)」に参画することとなりました。調査は、航空需要や建設投資額、回収期間など幅広く実施。調査結果をもとに、空港の施設整備や運営権について入札が実施される予定です。

インドと日本の
新しい絆づくりに
貢献できるように
取り組みます。



ドレラ新国際空港完成イメージ



空港建設予定地
(グジャラート州 アーメダバード市)

事業企画部 事業企画課
課長代理
武井 涼



トピックス4

羽田空港プライベートブランドに新作登場！

大好評の羽田空港プライベートブランドスイーツ「Times Cross」(タイムズクロス)の第2弾と羽田空港オリジナル飲料が新登場！
羽田空港をご利用の際には、ぜひお試しください。

羽田空港プライベートブランド「Times Cross」 第2弾「バウム職人のアップルケーキ」登場！

ドイツ菓子の専門店ユーハイムとコラボした「バウム職人のアップルケーキ」が10月からお目見え。シナモンを効かせたケーキ生地に、甘酸っぱいりんごと職人が丁寧に焼き上げたバウムクーヘンを入れた、しっとり食感のバターケーキです。



羽田空港オリジナル飲料ペットボトル 「ジュアアルディペコ」新発売！



9月に発売された低カフェインのブレンドティーです。香り豊かで上品な味わいのケニア産紅茶と南アフリカ産の無農薬ルイボスティーをブレンド。ポリフェノールが豊富で、美容や健康を気遣う方におすすめです。

トピックス5

「羽田スタースイーツ」に新ブランド登場！

思わず目移りしてしまう厳選スイーツブランドを集めたセレクトショップ「羽田スタースイーツ」に、10月から新たに登場！
食欲の秋にふさわしい絶品スイーツは、お土産やギフトにも最適です。



「Cinnabon」

米シアトル発のシナモンロール専門店です。最高級シナモンを使用した「シナボン」は世界53カ国で愛される、まさにスタースイーツ。日本では羽田空港が2号店となります。



「ミニボントリプルコンボ」9個入

「足立音衛門」



「栗のテリーヌ天」

和三盆も加えたバターケーキとの相性も抜群です。

京都・福知山に本店を構え、素材はもちろん細部にわたる材料までこだわりました。「栗のテリーヌ」は奥深い味わいを求めて3種の栗を贅沢に使い、

「ドミニクドゥーセの店」

すべてに完璧を求める職人のお店です。代表作のカヌレは表面のカaramelのカリッとした食感と、もちっと柔らかくとろけるような中身が至福のハーモニーを奏でます。



「カヌレ」5コセット

「羽田スタースイーツ」では話題のスイーツを自信をもって取りそろえています。



営業部 店舗管理課
塚原 聡

特集3 CSRの取組み ~地域社会の一員として~

企業も地域社会の一員であり、地域の皆さまのご理解があってこそその存在です。地元である東京都の2020年東京オリンピック・パラリンピック招致活動に加え、毎年、羽田空港が立地している大田区の地域活動に積極的に参加して交流を深めております。



1 大田スポーツGOMI拾い大会

晴天に恵まれた3月10日、「ゴミ拾いはスポーツだ！」の合言葉のもと、当社も協賛企業としてチーム対抗で地域のゴミ拾いに参加いたしました。これからも地元大田区の皆さまと一丸となって、クリーンな街づくりを積極的にお手伝いしてまいります。



2 羽田神社夏季大祭

夏真っ盛りの7月末、羽田空港が氏子になっている羽田神社の夏祭りに協賛企業として参加し、地域の皆さまと一緒に祭りを楽しみました。当社は毎年給水所を設置して、お祭りに参加した方々に空港スタッフが冷たいお茶のサービスを行っております。地元の大切な伝統行事をこれからも大いに盛り上げてまいります。



3 ふれあいまつり羽田

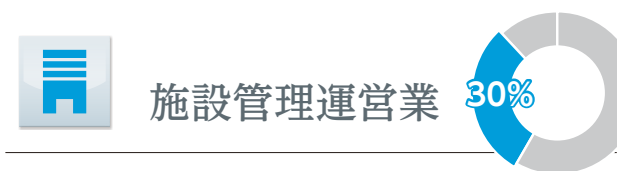
地域の賑わいと絆づくりを目的に、昨年秋に始まったお祭りに協賛企業として参加し、地域の皆さまと身近に接することができました。特設ブースにて当社オリジナルの空港限定スイーツを特別価格で提供いたしました。今後も地域の活性化に貢献できる機会を増やしてまいります。

台風26号で被災の東京都大島町に対する募金活動を実施

本年10月、台風26号により大きな被害を受けた東京都大島町に対して、東京都からの呼びかけに応じて館内に募金箱を設置し、義援金の募集をいたしました。

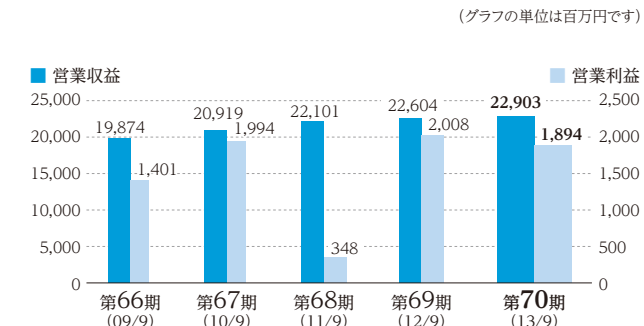


事業別概況



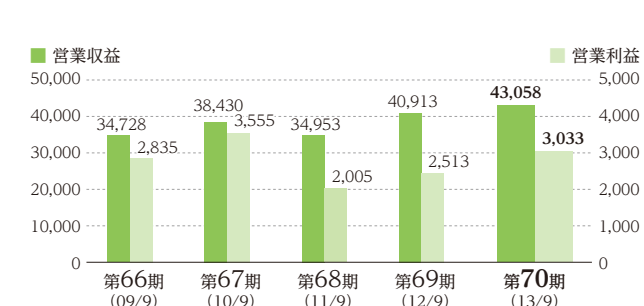
前年同期比増収減益となりました。

- 国内線施設利用料収入が増加。
- 駐車場収入やエアポートラウンジ収入などが増加。
- 3スポット供用開始により修繕費などが増加。



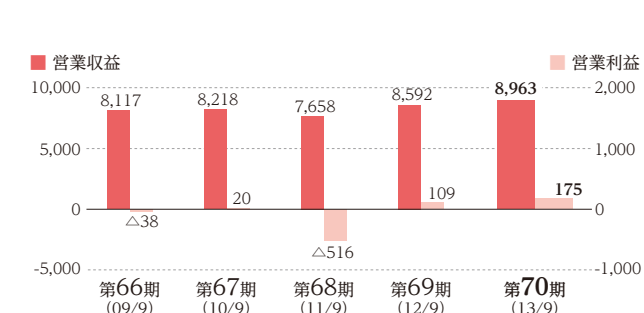
前年同期比増収増益となりました。

- 新規直営店舗展開、訪日外国人旅客数の増加などにより、国内線売店売上、国際線売店売上とも前年同期に比べ増加。



前年同期比増収増益となりました。

- 航空旅客数の増加などにより飲食店舗売上が増加。
- 顧客である外国航空会社の旅客数増加により、機内食売上が増加。

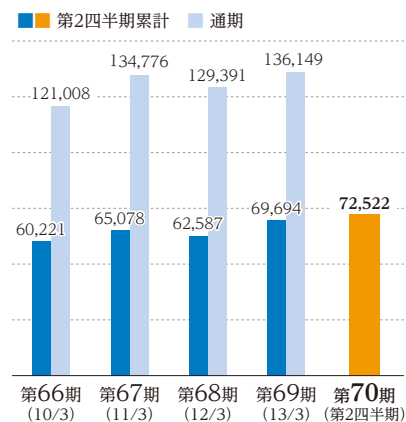


連結財務ハイライト

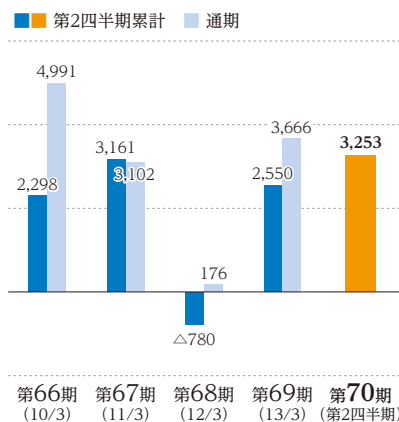
決算のポイント

- 営業収益 ▲ 国際線売店売上の好調な推移などにより物品販売業を中心に増収
- 経常利益 ▲ 上記要因に加え、商品原価の低減や各種コストの削減効果により増益
- 総資産 ▲ 現金及び預金の減少、減価償却に伴う有形固定資産の減少などにより微減

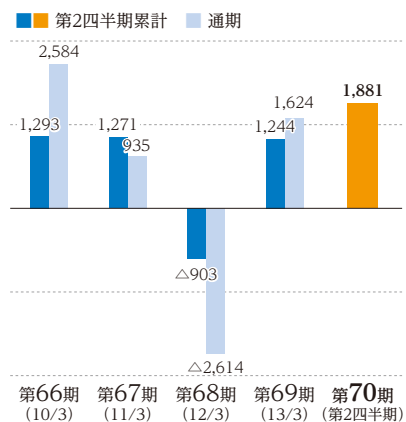
□ 営業収益(百万円)



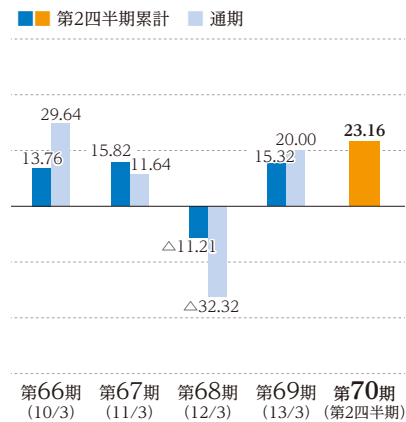
□ 経常利益(百万円)



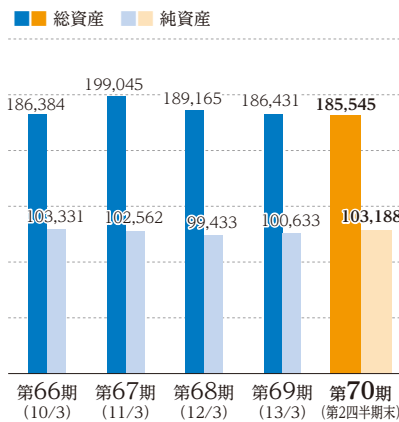
□ 四半期(当期)純利益(百万円)



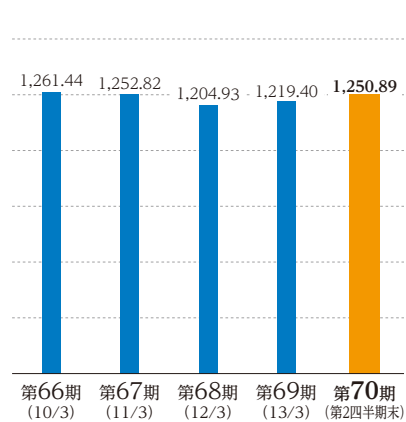
□ 1株当たり四半期(当期)純利益(円)



□ 総資産/純資産(百万円)



□ 1株当たり純資産(円)



連結財務諸表 (要旨)

(単位:百万円)

四半期連結貸借対照表	前期 2013年3月31日現在	当第2四半期 2013年9月30日現在
資産の部		
流動資産	32,584	32,218
固定資産	153,846	153,327
有形固定資産	122,761	118,503
無形固定資産	2,214	2,162
投資その他の資産	28,870	32,660
資産合計	186,431	185,545
負債の部		
流動負債	30,069	28,828
固定負債	55,728	53,528
① 負債合計	85,798	82,357
純資産の部		
株主資本	100,434	101,787
その他の包括利益累計額	△1,382	△177
少数株主持分	1,581	1,578
② 純資産合計	100,633	103,188
負債純資産合計	186,431	185,545

(単位:百万円)

四半期連結損益計算書	前第2四半期 自2012年4月1日 至2012年9月30日	当第2四半期 自2013年4月1日 至2013年9月30日
③ 営業収益	69,694	72,522
営業総利益	35,117	36,278
④ 販売費及び一般管理費	32,540	33,234
営業利益	2,577	3,043
営業外収益	948	750
営業外費用	975	540
経常利益	2,550	3,253
特別利益	-	89
特別損失	119	126
税金等調整前四半期純利益	2,431	3,216
法人税等	1,160	1,313
少数株主損益調整前四半期純利益	1,270	1,902
少数株主利益	26	21
四半期純利益	1,244	1,881

- ① 負債合計/未払費用、未払法人税、長期借入金の減少などにより、前期末と比べ34億4千万円減少の823億5千7百万円となりました。
- ② 純資産合計/利益剰余金やその他有価証券評価差額金の増加などにより、前期末と比べ25億5千5百万円増加の1,031億8千8百万円となりました。

- ③ 営業収益/売店売上が国内線、国際線ともに好調、また国内線施設利用料収入の増加などにより、前年同期比4.1%増の725億2千2百万円となりました。
- ④ 販売費及び一般管理費/国内線第2旅客ターミナルビルの3スポット供用開始による修繕費の増加などにより前年同期比で増加しております。

詳細な財務情報は、当社ホームページ「株主・投資家情報」をご覧ください。 <http://www.tokyo-airport-bldg.co.jp/company/ir/>

会社概要 (2013年9月30日現在)

会社概要	
商号	日本空港ビルディング株式会社 Japan Airport Terminal Co., Ltd.
設立	1953年7月20日
資本金	174億8,920万円(東証一部上場)
事業内容	(1) 羽田空港旅客ターミナルビルの建設、管理運営 (2) 物品販売業務 (3) その他のサービス業務

本社及び営業所など	
本社	東京都大田区羽田空港三丁目3番2号 (第1旅客ターミナルビル)
東京事務所	東京都千代田区丸の内二丁目4番1号 (丸の内ビルディング14階)
成田営業所	千葉県成田市古込字込前164番地 (成田国際空港内コスモビル)
大阪営業所	大阪府泉南郡田尻町泉州空港中1番地 (関西国際空港内旅客ターミナルビル本館1階)
中部営業所	愛知県常滑市栄町一丁目124番地

グループ構成	
施設管理 運営業	<ul style="list-style-type: none"> ■日本空港テクノ(株) ■羽田エアポートセキュリティー(株) ■(株)櫻商会
サービス	<ul style="list-style-type: none"> ■(株)ビッグウイング ■羽田旅客サービス(株) ■ジャパン・エアポート・グランドハンドリング(株)
物品販売業	<ul style="list-style-type: none"> ■(株)羽田エアポートエンタープライズ ■国際協商(株) ■(株)日本空港ロジテム ■羽双(成都)商貿有限公司 ■(株)浜真
飲食業	<ul style="list-style-type: none"> ■東京エアポートレストラン(株) ■コスモ企業(株) ■(株)シー・ティ・ティ ■会館開発(株)

役員			
代表取締役社長執行役員	鷹城	勲	
代表取締役副社長執行役員	土井	勝二	
専務取締役執行役員	横田	信秋	
専務取締役執行役員	那波	史郎	
常務取締役執行役員	越智	久男	
常務取締役執行役員	阿南	優樹	
常務取締役執行役員	浅野	文郎	
常務取締役執行役員	宮内	公	
常務取締役執行役員	米本	靖英	
常務取締役執行役員	河合	誠	
取締役(非常勤)	高木	丈太郎	
取締役(非常勤)	小谷	昌	
取締役(非常勤)	洞	駿	
取締役(非常勤)	大西	賢	
取締役(非常勤)	櫻井	正志	
監査役	小川	洋一	
監査役	古賀	宰	
監査役(非常勤)	赤井	文彌	
監査役(非常勤)	樋口	公啓	
監査役(非常勤)	竹島	一彦	
専務執行役員	田中	一禎	
常務執行役員	丸岡	晋	
常務執行役員	仲野	眞琴	
常務執行役員	田中	一仁	
執行役員	徳武	大介	
執行役員	大谷	益夫	
執行役員	久保	健治	
執行役員	正木	弘明	
執行役員	炭本	悟	
執行役員	川崎	智洋	
執行役員	藤野	威	
執行役員	小山	陽子	

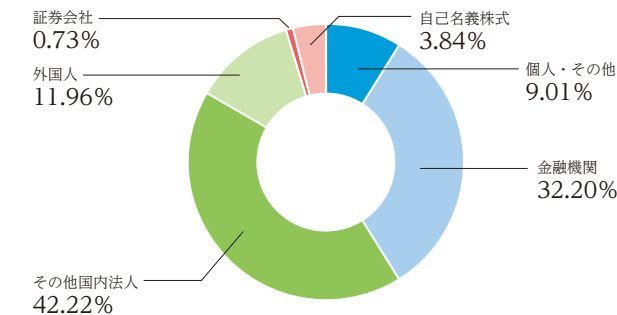
株式情報 (2013年9月30日現在)

株式の状況	
発行可能株式総数	288,000,000 株
発行済株式の総数(うち自己株式 3,246,572株)	84,476,500 株
株主数	6,853 名

大株主(上位10名)		
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本航空株式会社	4,398	5.41
ANAホールディングス株式会社	4,398	5.41
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (三井住友信託銀行再信託分・ 京浜急行電鉄株式会社退職給付信託口)	3,484	4.28
株式会社三菱東京UFJ銀行	3,408	4.19
株式会社みずほ銀行	3,300	4.06
三菱地所株式会社	3,111	3.83
大成建設株式会社	2,831	3.48
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー	2,525	3.10
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,459	3.02
日本通運株式会社	2,337	2.87

(注) 持株比率は自己株式(3,246,572株)を控除して計算しております。

所有者別株式数分布



株主メモ

事業年度	4月1日から翌年の3月31日まで
定時株主総会	毎年6月に開催いたします
基準日	定時株主総会の議決権 3月31日 期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
公告掲載新聞	東京都において発行する日本経済新聞
株主名簿管理人	〒103-8670 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱所	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL:0120-288-324(フリーダイヤル)

財務情報は、当社ホームページの「株主・投資家情報」をご覧ください。

<http://www.tokyo-airport-bldg.co.jp/company/ir/>



株主優待のお知らせ

当社では3月31日時点の株主さまに対して、毎年6月下旬の年1回、株主ご優待券を配布させていただいております。

株主ご優待券

羽田空港旅客ターミナル内店舗をはじめとする当社指定店舗にてご利用いただけます。



ご所有株式数	ご優待券
100株以上1,000株未満の場合	1枚1,000円分
1,000株以上10,000株未満の場合	2枚2,000円分
10,000株以上の場合	3枚3,000円分

ご利用いただける店舗

- 羽田空港 第1旅客ターミナル
- 羽田空港 第2旅客ターミナル
- 羽田空港 国際線旅客ターミナル
- 成田空港
- 関西空港



羽田空港 第1旅客ターミナル
「MARKET PLACE」

株主ご優待割引券

羽田空港、成田空港及び関西空港内の当社指定免税売店でご利用いただける「株主ご優待割引券(10%引)」を1単元(100株)以上ご所有の株主さまに対し、**一律5枚配布**いたします。



ご所有株式数	ご優待券
100株以上	割引券(10%引) 5枚

ご利用いただける店舗

- 羽田空港 国際線旅客ターミナル 国際線3F出国エリア中央にございます「TIAT DUTY FREE SHOP CENTRAL店」のみご利用となります。
- 成田空港、関西空港の当社指定の店舗



羽田空港 国際線旅客ターミナル
「TIAT DUTY FREE SHOP CENTRAL店」

株主ご優待券について、詳しくは、同送のご利用可能店舗一覧または以下のURLをご覧ください。

http://www.tokyo-airport-bldg.co.jp/company/ir/stock_information/preferential.html

基本理念



1953年、当社は羽田空港の旅客ターミナルビルの建設・管理運営を目的として設立されました。

現在、当社グループは、施設管理運営業のほか、免税店などの物品販売業、空港内レストランや機内食製造・販売などの飲食業を展開しております。

CS理念

「訪れる人に安らぎを、去り行く人にしあわせを」のもと、すべてのお客さまにご満足いただけるよう、サービスの向上に取り組んでいます。

基本理念

公共性と企業性の調和

経営方針

- 旅客ターミナルビルにおける絶対安全の確立
- お客さま本位(利便性・快適性・機能性)の旅客ターミナルビル運営
- 安定的かつ効率的な旅客ターミナルビル運営
- 企業体質の強化およびグループ企業の総合力向上

上場株式等の配当等に係る税金に関するご案内

[2013年11月時点での情報を基に作成しております。]

2013年12月31日をもって上場株式等の配当等に係る軽減税率が廃止され、2014年1月1日以降に支払開始日を迎える上場株式等の配当等の税率は本則税率となります。また、2013年1月1日～2037年12月31日までの25年間は、復興特別所得税として基準所得税額に対して2.1%を乗じた金額が課税されます。具体的な税率は、下表をご参照ください。

2013年中に支払開始となった上場株式等の配当等の税率	2014年1月1日～2037年12月31日までに支払開始日を迎える上場株式等の配当等の税率	2038年1月1日以降支払開始日を迎える上場株式等の配当等の税率
10.147%	20.315%	20%
所得税+復興特別所得税 7.147% 住民税 3%	所得税+復興特別所得税 15.315% 住民税 5%	所得税 15% 住民税 5%

※上記税率は源泉徴収が行われる場合の税率です。なお、内国法人の場合は住民税が徴収されません。

※発行済株式の総数等の3%以上に相当する数または金額の株式等を有する個人の大口株主さまにつきましては、別の税率となりますので、ご注意ください。

※その他詳細につきましては、所轄の税務署にお問い合わせください。